

# 支援する会を拡大し動労総連合1万人へ

## その1 全国から八五〇名、佐藤氏が基調報告



三里塚・国鉄決戦勝利で中曽根打倒へ

六月二〇日、東京・牛込公会堂において行われた「動労千葉とたたかう国鉄労働者をばげまし連帯する6・20集会」には、動労千葉二二〇名をはじめとして、動労総連合、国労、全通、教組、三里塚反対同盟、新関西空港反対東灘区住民の会、支援労組など全国から八五〇名が結集し、基調報告を行った佐藤芳夫氏は、「支援する会を拡大し、総連合組合員一万人へ」と全参加者に訴え、今後も全力で動労千葉を支援し、三里塚を全力で闘うことを全参加者とともに確認し、集会の大成功をちとつた。



山本氏 会を代表して山本善偉氏は、「いま、新関西空港反対を闘っているのは、三里塚

### 動労千葉のように闘おう

冒頭、司会者は「敵の攻撃は大破産した。今日の集会に動労千葉をはじめとした多くの国鉄労働者が結集していることの中に大破産が示されている」と力強く宣言した。



高島氏 まず、呼びかけ人を代表して高島喜久男氏が挨拶に立ち、「今度の国鉄の闘争で

闘ったのは動労千葉だけだった。なぜそういう組合になったのか。それは、二〇年間機動隊の暴力と対決してきた三里塚の農民が持っている強さを、二〇年の連帯を通して組合員一人ひとりが自らのものとして鍛えあげたからだ」と語り、そして、全参加者が動労千葉のように闘い、動労千葉のような組合を作りあげようと訴えた。

### 中曽根政治をぶつとばせ



北原氏 激励と連帯の挨拶に移り、最初に三里塚芝山連合空港反対同盟の北原鉦治事務

局長が挨拶を行い「われわれが勝利するために、さらにわれわれの闘いを進めるしかない。三里塚闘争は、もっとも熱い時をむかえた。中曽根の戦争政治のために若者を戦争に送ってはならない」と三里塚闘争への連帯を訴えた。つぎに、新関西空港反対東灘区住民の



山山氏 さらに、弁護士は「日本階級闘争の中で、まさに闘

と国鉄決戦を闘っている人達だけだ。中首根は野望を達するために三里塚、動労千葉を潰そうとしている。しかし、闘えば勝てる。中曽根の戦争政治をぶつとばそう」と熱気あふれる発言を行った。

### 労働者の大義を守り闘う 動労千葉



佐藤氏 立正大学教授・浅田光輝氏、埼玉大学教授・鎌倉孝夫氏、婦人民主クラブ全国

協議会、長崎三菱連帯支部長船岡組からのメッセージが紹介された後、「いまこそ戦闘的労働戦線の構築を」と題して全造船石川島分会委員長の佐藤芳夫氏より基調報告が行われた。佐藤氏は「動労千葉は、今日の分割・民営化攻撃の中で唯一労働者の大義を守りぬき不屈に闘っている。この闘いは、多くの労働者の利益、あるいは家族の毎日苦しい生活を代表して闘っている。とりわけ、三里塚の緑の大地をコンクリートで固めようとするこ

とに対して三里塚農民と連帯して断固として闘っている。一九七七年にはジェット燃料輸送阻止の闘いに決起し、一九七九年三月に動労から分離独立をちとつた。さらに、一九八一年三月には五日間のストライキを貫徹した。そして、分割・民営化、十万人首切りの狙いが国鉄労働運動解体であることに對して動労千葉は、八五年11・28～29スト、続いて八六年2・15ストに決起した。二八名の解雇、十二名の清算事業団送りという攻撃にもかわららず、四月一日以降敵の攻撃をはねかえして組織をのこした。敵の矛盾も広がっている。国労や動労千葉の存在が一企業一組合を破綻に追い込んだ。一方、修善寺大会の勝利以外に国労六本木執行部はなんら方針が出せなかった。そして国労も少数組合になった。しかし、旧来の公労法にとらわれずストをやっても解雇になることもなくなったのであると意気高く報告し、さらに闘う方針として、①二八名の解雇者、十二名の清算事業団の仲間を奪還する ②不当配転、出向攻撃と対決する。運転保安に全力をあげる ③七〇年代の分裂少数派組合の教訓を学ぶ ④地域の闘い戦線、争議団、守る会運動との連帯をはかる ⑤無協約を恐れない ⑥総連合は労働者の闘う砦であるという位置づけをすること ⑦支援する会の拡大をちとつて総連合一万人の組合にする、と提起した。さらに当面する課題として、①三里塚二期阻止、関西新空港を絶対許すな ②破防法を粉碎しよう ③天皇訪沖をなんとしても阻止しよう、と全参加者に訴え、基調報告を終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

(つづく)